

## 高校建設系学科におけるキャリア教育の実践

栃木県立那須清峰高等学校 正会員 鈴木 良孝

### 1 はじめに

望ましい職業観・勤労観の育成のもと、様々な学習を通してキャリア教育の推進が各年代で進められている。特に専門高校においては高校卒業後に就職する生徒が多く、専門知識や技術・技能だけではなく社会に出るために必要な挨拶や礼儀などの素養も身につける必要がある。しかしながら、就職した生徒が離職するケースも多く見られる。特に、建設業は高卒の就業者の約半数が3年以内に離職している現実がある。そこには、学校で学んだことと実際の建設現場でのミスマッチがあると考えられる。そこで、本校では学校の力だけではなく、大学・専門学校の協力や、各協会や団体および地域の企業技術者の協力を得ながら、地域産業に貢献できる技術者の育成を目指し、キャリア教育を展開している。

### 2 建設系学科が抱える課題

ひと昔の建設系学科の生徒は、自宅で建設業を営んでおり将来の跡取りや保護者が建設業に携わっているという生徒が半数程度いたが、現在はそういった生徒はそれほど多くない。また、以前は元気が有り余る生徒が多く、指導に苦勞した時代もあったが、入学してくる生徒の資質も変化し、新たな課題が見えてきた。

- ①建築・土木に対する知識の不足
- ②目的を持って入学してくる生徒が少ない
- ③ものづくりの経験が少ない
- ④安全意識の不足
- ⑤自己肯定感の低さ
- ⑥保護者の建設業に対する理解不足
- ⑦進路情報の不足

### 3 身につけさせたい力

キャリア教育は学習指導要領総則に記載されている「生きる力をはぐくむ」を目指し、将来地域産業に貢献できる技術者の育成という視点を重視している。特に建設業に必要な、「コミュニケーション能

力」、「チームワーク」、「安全意識」などの他に、「ものづくりを楽しむ」、「課題解決能力」、さらには「自尊感情や自己肯定感」といった部分も伸ばしていきたい力である。

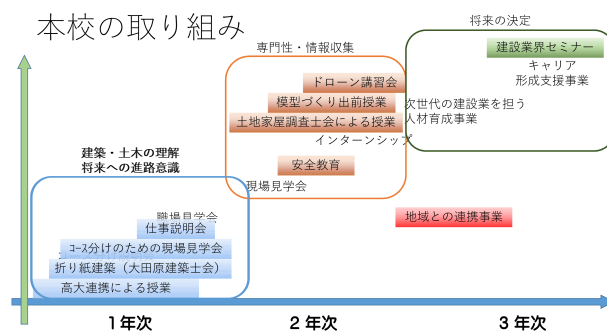


図-1 取り組みと身につけさせたい力

### 4 出前授業等を実施する問題点

外部の力を借りて行う出前授業によって正規の授業時間を確保できないデメリットもある。そこで、専門科目と出前授業および現場見学との関連を考えながら学校で不足している部分を外部の力で補うように工夫している。また、様々な費用も問題となる。現場見学についてはバス代が新たな負担となったが、他の事業については、各団体や専門学校に協力していただき、新たな負担は抑えることができた。

### 5 具体的な取組み

#### (1) 建築・土木分野の理解と将来への進路意識の向上に向けて

1年生は、入学し約半年で2年生からのコース選択を迫られる。そこで、まず1学期および9月に出前授業や講話、そして昨年度よりコース分けのための現場見学会を取り入れた。



図-2 現場見学



図-3 仕事説明会

キーワード：キャリア教育，地域連携，人材育成，ものづくり，自己肯定感  
連絡先：栃木県那須塩原市下永田 6-4 栃木県立那須清峰高等学校建設工学科

Tel 0287-36-1155

大学と締結している高大連携事業の一環として、専門的な知見から建設事業、特に有名な構造物の紹介を通して建設事業の社会的な意義を生徒に伝えてもらっている。

次に土木・建築についての最新の技術研究や実勢の現場見学として、五洋建設（株）技術研究所（那須塩原市）と国道 400 号下塩原バイパス工事の 2 箇所の見学を行い、専門に対する知識を高め、コース選択や将来の進路選択に役立てている。

また、（一社）栃木県建設業協会や地元建設業者協力の下、建設業仕事説明会も実施し、建設業に携わる様々な職種や仕事内容を現役の技術者や本校 OB より伝えてもらう事業も行っている。

## （２）専門性を高める取組

専門性を高めるため外部の力を取り入れている。

製図では、専門学校の先生方や学生の協力により模型製作を実施している。模型製作の注意点や工夫などのテクニックを学べ、普段描いている平面のみではなく、立体的に考える力を育てることができた。また、製図に対する興味・関心を高めるきっかけとなった。

また、（一社）栃木県建設業協会の支援の下、「将来の建設業を担う人材育成支援事業」として様々な取り組みを行ってきた。2 年生ではインターロッキング舗装、3 年生では小屋づくりを実施した。実際の施工では地元建設業者の協力により、技術・技能に加え、施工の流れを学ぶ機会にもなっている。またものづくりを体験することで建設業に対する魅力を感じることができた。

## （３）地域への技術・技能の還元

一部生徒ではあるが、自ら学んだ知識や技術・技能を活用し地域に貢献する取組を行っており、昨年度から、本校に隣接する那須塩原市立大山小学校で実施している。内容は、学校の委員会活動に協力しプランターケース製作と運動会に向けて 200m トラック整備を実施した。今年も、プランターケース製作と 50m レーンの整備を行っている。また、最新の測量器械を使つての小学校敷地の地図づくりも行っている。

これらの活動を通して生徒は自分たちの力が地域に役立つことを感じられ、自己肯定感を高める効果が期待できる。

## 6 様々な事業は教員自身も学ぶ機会

これらの事業を通し、教員側も新たな発見や学びが非常に多い。

建設系の若い教員は、現場経験がない方がほとんどであり、私自身も民間で働いた経験が無く、ほとんどの技術・技能は先輩教員や様々な事業、さまざまなものづくりを通し、試行錯誤して身につけたものである。

大学や専門学校の先生方の講話、専門分野の技術・技能者の指導、民間企業に勤める方の経験を踏まえながらの講演はわれわれ教員も学ぶことが多い。

なかなかオールマイティーとはいかないが、広い知見と技術・技能をもって専門職としての生徒指導に努めることが重要である。生徒共々、教員も日々勉強であり、完璧はないと強く感じる。

## 7 まとめ

本校建設系学科が取り組む事業を報告した。これらの事業は平成 27 年度から試行錯誤しながら新たに実施してきた事業である。

近年、卒業生の多くが建設関係の企業に就職している。これは、近年の求人増加の影響が大いにあると思うが、少なからずこれらの事業がキャリア教育として生徒の意識を変えてきているのは確かである。

このような取組を積極的に取り入れることが生徒の可能性を高める一つになると考える。これからも PDCA サイクルを回しながら、改善していく必要がある。そして、最近はずぐに辞めたという話はあまり聞かなくなってきたが、少しでもミスマッチを減らし、離職率低下に努めていきたい。



図-4 模型製作



図-5 インターロッキング舗装



図-6 200mトラック整備



図-7 プランターケース製作